

高地性集落について I

芸予諸島を中心にして

七 森 義 人

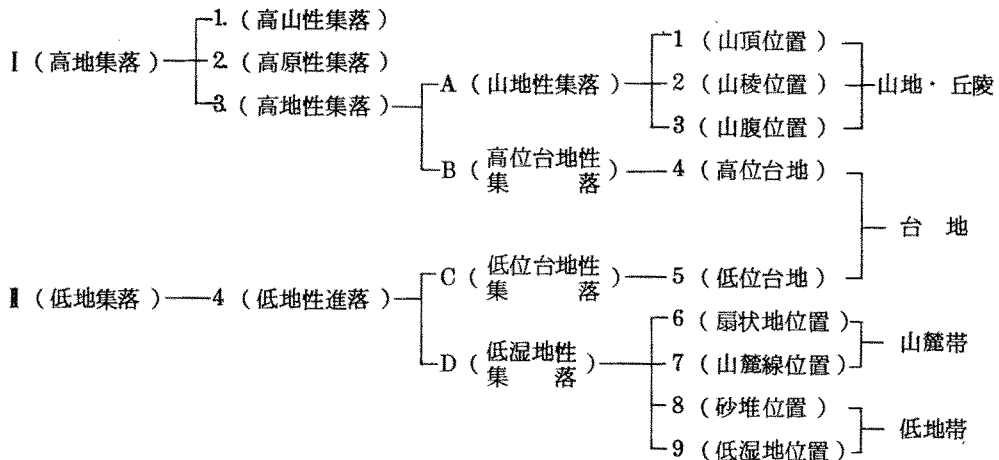
I はじめに

私がこの高地性集落に興味を持ったのは、古代山城の前身は何であろうかと探っている時に、神籠石式山城の祭政一体説（祭祀と政治は一体として行なわれる）、及び、古代山城の有る場所に山岳寺院等の宗教的遺構がある等、古代の軍事は宗教との関わりが強く、此の高地性集落は、集落という住民が住んで生活している場所で、祭祀と防衛という祭政一体の実体として此を取り上げてみる。

なお、此高地性集落が弥生時代に著しく発生し、古墳時代にはほとんど消滅していったが、此は古代山城と時期がずれているが、古代山城も急激に出現し、そしてまた消滅していった。これと似ており、なぜ急激な出現と消滅をしたのかわかれば、古代山城の急激な出現と消滅の手掛りとなるであろう。

II 高地性集落の性格

1. 高地性集落の分類法（小野忠熙氏による『城』『社会思想社刊』）



上図の様に分けられ、高山性集落とは比高に関係なく、標高が千mを越える遺跡で、高原性は、山麓斜面が開折された高原状の地形であり、私が比で記したものはAとBで1～4の遺跡である。注①

2. 高地性集落の特色

- ① 瀬戸内海、及び川を中心にして、その周囲の山麓、及び諸島に遺跡が存在していて、海運、川運、及び陸上交通の街道との関連が強いと思われます。

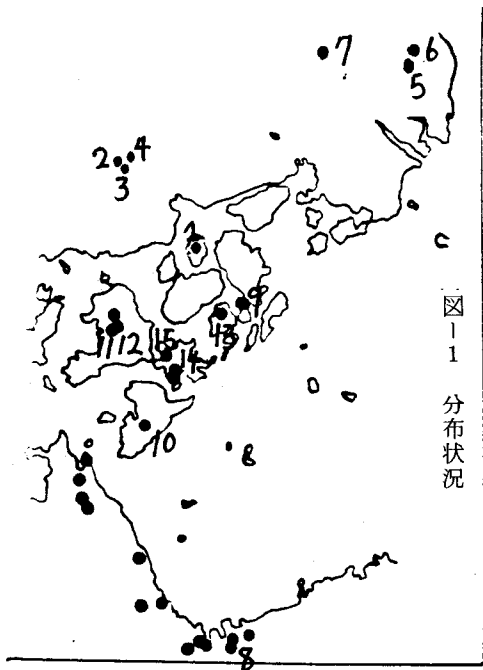


图1 分布状况

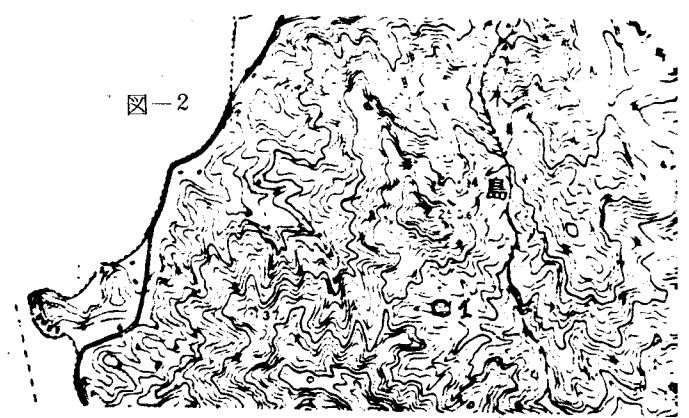


图-2



图-7

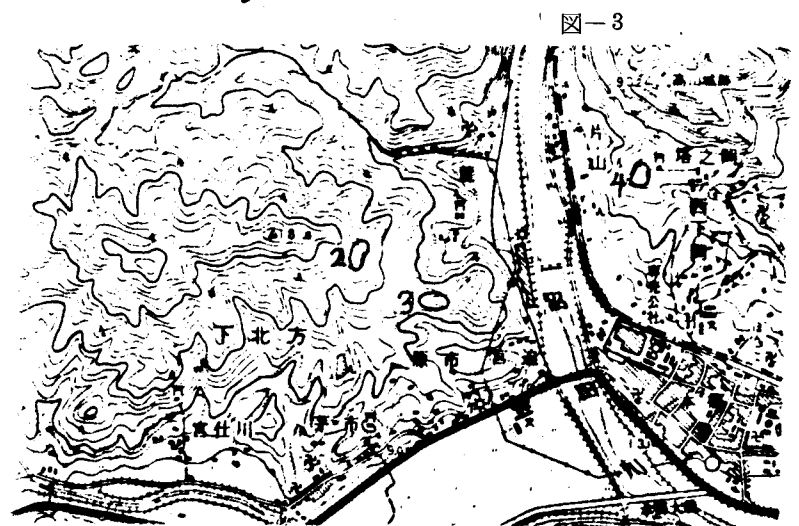


图-3

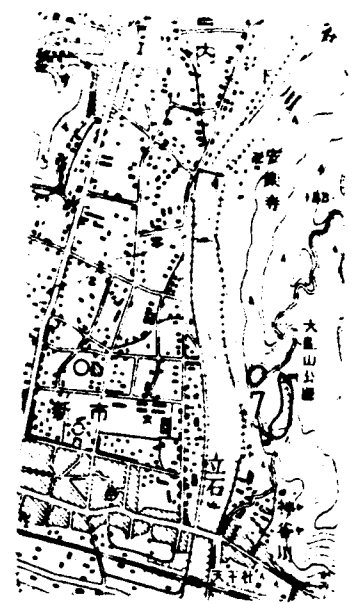


图-5



图-8

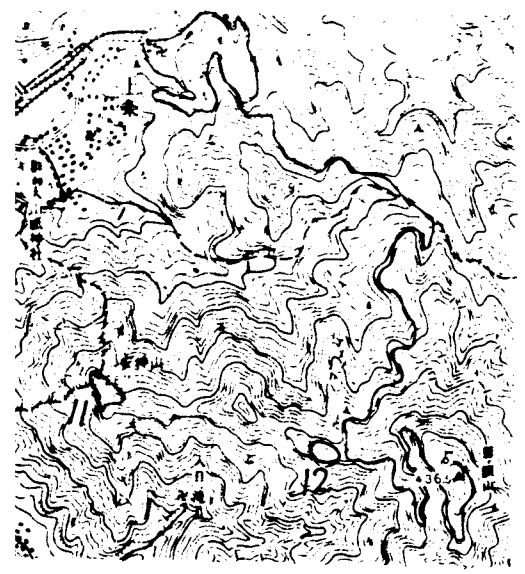


图-9

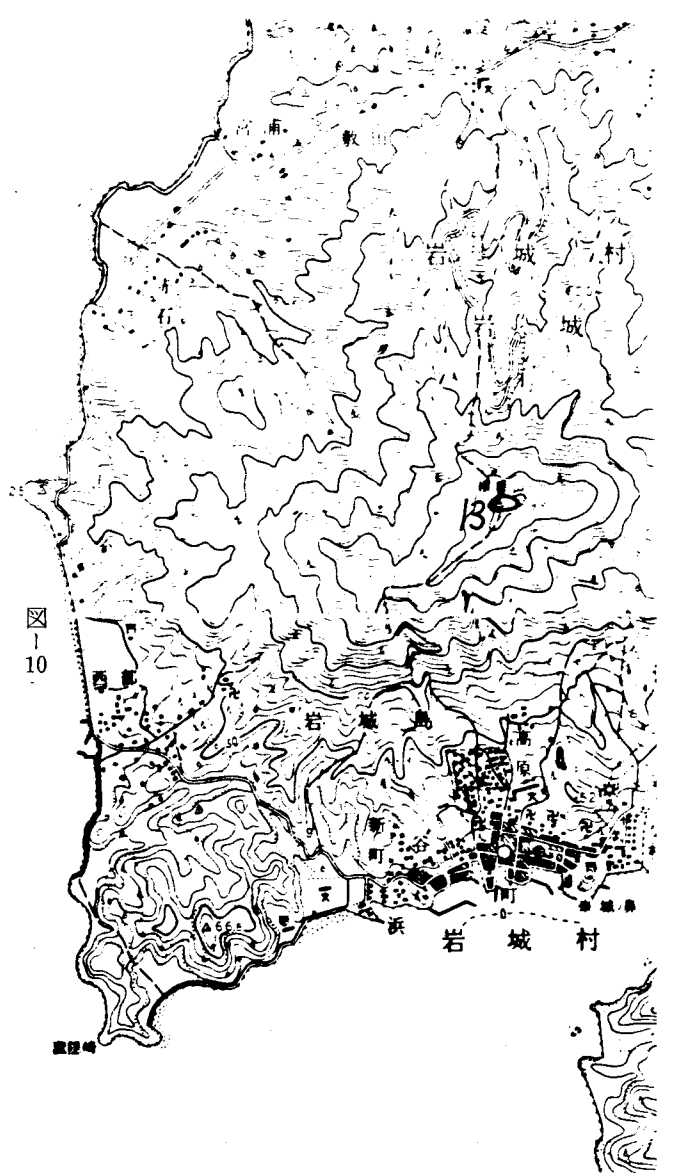


图-10

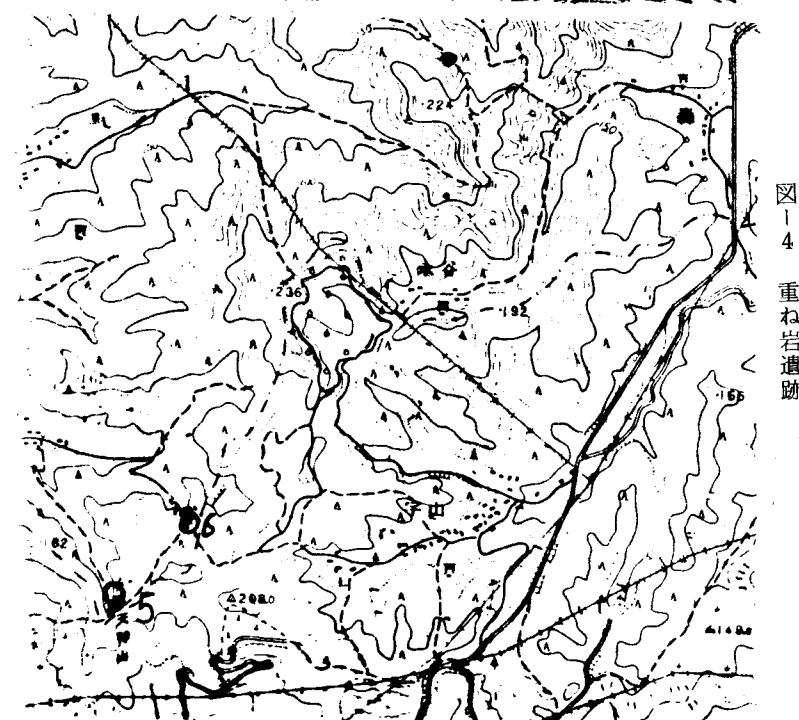


图-4 重松岩遺跡



图-6

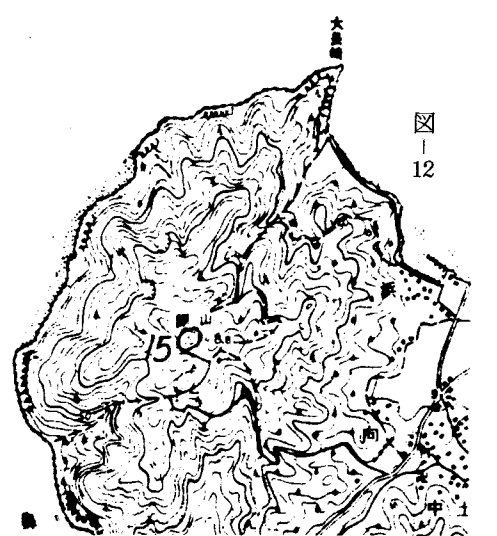


图-12

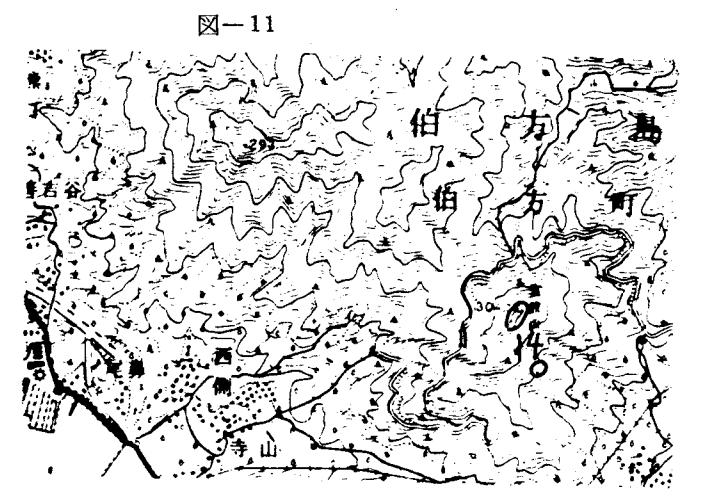


图-11

- ② 弥生時代に急激な発展をとげて、古墳時代には、ほとんど消滅していったというなぞが有る。
- ③ 海面からの比高が100mを越える高所でも、貝塚が形成されるという、海との関わりが強い。
- ④ 祭祀的遺構が多くの遺跡から発見され、古代は祭祀と生活が一体であったというのが良くわかる。注②

3. 交通と祭祀

瀬戸内海の交通と祭祀に関わりが深いと思われるので祭祀の起りについて簡単に記す。

古代では自然物を拝むという自然崇拜が強く、巨石、巨木、海、川、湖、池、湿原、山等に、神が御座しますと考えていた為に、瀬戸内海を航海する時は、海の神にお供えをする。その名残りが、岡山市の高島、笠岡市の飛島、九州から朝鮮へは、福岡県の沖ノ島、又、三重県の太平洋から、伊勢湾に入る所に神島がある。そして島の漁民等は山を目印とし、神奈備型の山を崇拜する。此により、山頂等に磐座が出来る。そして、霊山を拜める様な場所の山であれば、その山より霊山を崇拜する。

4. 祭祀の分布

瀬戸内海の沿岸、及び中央航路としての場所は、岡山県岡山市の児島湾に浮ぶ高島、香川県直島町の荒神島、岡山県笠岡市の沖合いに浮ぶ飛島、広島県福山市の芦田川河口付近にある、箕島の高丸磐座、同市の柳津町の竜王山の東方の天津、平岩の御磐座、愛媛県越智郡生名島の立石山の磐座・立石等、同郡の大島の八幡山の巨石等、同郡大三島の安神山の磐座、又、大三島にはドルメンがあったが、昭和の初期に破壊されたとの事である。

5. 交通と防衛

敵軍が侵入して来る時は普通、主要航路、主要街道を利用するので、その付近に、防衛、通信、望楼等の役割を持った高地性集落を造り、敵兵が侵入したら烽火台にて烽火を上げて、知らせると同時に低地の臨海性遺跡の住民によって、不意に敵船に攻めたりする。

此、臨海性遺跡とは、ソーシャル・リサーチの長井数秋氏によれば、中世の水軍と同じ様に、高地性集落にて船の見張りをして、臨海性遺跡にて、船を出す。此により、弥生時代より水軍の源形が出来たと云われる。注⑭

Ⅲ 各遺跡の性格

1. 三古志遺跡 図-2 参照

広島県三原市鷺浦町字三古志

I-3-A-C 標高130m、比高120m、東方の谷への傾斜はゆるやかであるが鞍部から西方の海岸への傾斜は急である。東方の谷への水田もしくは畑の耕作が可能かもしれない。

集落の性格としては、望楼、防衛、農耕の遺跡と思われる、眺望は、遺跡の西方の尾根の鞍部が集落と思われる、そこからの視界はあまり良くないが、此より北方約300mの標高250.6mの山頂に立てば、わずかに尾道から竹原の沖合いまで、三原方面を除けば、竹原から沿岸沿に航海する船は見渡す

事が出来る。又、遺跡より南方へ600m程行った標高260mに立てば、三原から瀬戸田まで見渡す事が出来る。弥生後期の出現である。注⑮

2. 新庄庵遺跡 図-3参照

広島県豊田郡本郷町大字下北方字籠

I-3-A-b 標高140m、比高120m、東の傾斜は急で崖状であるが、西方はゆるやかに山頂(181m)に続いている。遺跡付近は特にゆるやかで平坦である。弥生後期～古墳時代に集落があった。注⑯

3. 陣べら遺跡 図-3参照

広島県豊田郡本郷町大字下北方字原市

I-3-A-b 標高70m、比高60m、東方約200mの90mの山地に立てば沼田川が北方から東方まで見渡せる。此は、新庄庵遺跡の東方約400mの所にある。此の遺跡は遺跡もゆるやかである。付近の傾斜もゆるやかである為に防衛用としては使用できないであろう。

通常は此で生活していて、いざという時は後方の新庄庵遺跡へ行くのであろうか(古代山城の逃げ込み式、中世の詰め城の様なものであろうか)。此の遺跡は役割としては、通信、望楼の役割があっても少なく、防衛としては機能せず、農耕が役割であろう。弥生後期から古墳時代に集落が営まれた。注⑰

4. 塔之岡遺跡 図-3参照

広島県豊田郡本郷町字塔之岡

I-3-B-d 標高80m、比高60m、北方に高山城があり、北方は急である。南方はゆるやかで、西方も急である。此の遺跡はゆるやかで平坦で広い。弥生時代に出現した。注⑱

なお、2、3、4、は本郷という沼田川の良港の山腹にあり、沼田川を上下する船を見張り、又、旧山陽道が真良の方を通っていた為に、旧山陽道と、瀬戸内海航路の間に位置しており、両方へ兵を派遣するのに都合の良い場所である。(又、此付近は古墳等が有り、古代から栄えた土地である。)

5. ナメラ遺跡 図-4参照

広島県福山市蔵王町と千田町と深安郡神辺町の境である天神山から蔵王町と神辺町の境の方へ(東北)約50m程行った神辺町側の傾斜地。

I-3-A-b 標高150m、比高120m、稜線の鞍部に集落があったと思われる。北方の谷はゆるやかであるが、南方の谷はやや急である。南西の天神山に立てば、眺望が良くきき、通信、望楼防衛、農耕を兼ね備えた集落と思われる。弥生後期に出現。注⑲

6. 岩田遺跡 図-4参照

広島県福山市と神辺町の境の神辺町よりにある。

I-3-A-c 標高150m、比高120m、谷間にあり、農耕は可能と思われる。弥生後期に出現した。注⑳

なお、5、6、は、共に山稜にあるが、傾斜がゆるやかで農耕が可能で、しかも、平地からは一部が急となっている為に、防衛にも都合が良く、眺望も良くきく。

しかも、此遺跡の南方の現福山市蔵王町の深津湾に面した所は市村という良港で海蔵寺という寺の門前町で、大迫のあたりと共に此あたり一帯は古代、特に栄えていた。しかも穴海が神辺町に入り込んでいた為に、此集落の麓に船が出入り出来て、兵の移動が簡単に出来た。又、此山は、山頂付近に永谷古墳群があり、神辺町の名越に重ね岩遺跡が山中にあり、此は、高地性集落との関わりはないであろうか。私は、高地性集落のほとりに結界の様な感じで祭祀を行なって道祖神と同じ様な役割をしていたのかもしれない。(道祖神とは村境^{注②}にあって、村の外から病気等の悪い神が入ってこない様に此に祀って外から悪い神が入りそうになったら追い払ってくれる神様)。もしくは、元々、この重ね岩にも集落があって、村の守り神としていたのかもしれない。

7. 神谷川遺跡 図-5 参照

広島県芦品郡新市町字神谷川

I-3-A-b 標高80m、比高60m、西側傾斜は特に急である。芦田川と神谷川が見渡せる。弥生後期～古墳時代に集落が営まれた。注②

8. 八堂山遺跡 図-6 参照

愛媛県西条市八堂山乙1-1

I-3-A-a 標高196m、比高180m、西方の河の方は傾斜で、南東への鞍部、もしくは東方への傾斜はゆるやかであり、その方面に畑作があったと思われる。山頂に集石遺構があり、霊峯石鎚山を崇拜する為のものと思われる。祭祀の役割が主で、通信と望楼も可であるが、防衛的役割はなかったと思われるが、農耕的役割は一部有ると思う。弥生中期～後期に集落があった。注②

9. 立石山遺跡 図-7 参照

愛媛県越智郡生名村立石山

I-3-A-a 標高1388m、比高130m、山頂からの傾斜は急で、しかも、山頂は東嶺と西嶺に分れている。西嶺の方に祭祀遺構の陽石、陰石、磐座、集石遺構等が有り、東嶺の方は通信用の烽火台として使用されたと思われる。又、中腹にも巨石を利用した子安観音があり、麓には、立石山の名がついた所以である、高さ7m、周囲5mの立石が有り、全山が祭祀的遺構と思われる。此よりの眺望は因島、弓削、佐島、岩城島、生口島と南方は少し見えないが各水道が見渡らせる。注②

10. 八幡山遺跡 図-8 参照

愛媛県越智郡吉海町八幡山

I-3-A-a 標高215m、比高190m、山頂から八合目にかけて遺物が出土しており、山頂一帯は祭祀的意識の有る巨岩群がある。山頂付近は平坦であるが岩がごろごろしている。弥生中期～後期に集落があった。祭祀と防衛(待避)的な集落で、農耕、望楼は出来ないと思われる。注②

11. 安神山遺跡 図-9参照

愛媛県越智郡大三島町安神山

I-3-A-a 標高260m、比高250m、此より鷲ヶ頭山への傾斜はゆるやかであるが他は急傾斜である。山頂は平坦で巨石(磐座)があり、古代から現在まで勢力のある大山積神社の御神体山であろう。弥生中期～後期の遺跡で祭祀のみの、役割であろう。注⑳

12. 鷲ヶ頭山遺跡 図-9参照

愛媛県越智郡大三島町鷲ヶ頭山

I-3-A-b 標高320m、比高310m、稜線上の傾斜はゆるやかであるが、北、南、共に急傾斜である。弥生中期に出現した。集落の役割としては山頂が平坦であるので農耕が考えられるが、少し狭すぎるが、通信、望楼は共に不向きな場所で、東方の鷲ヶ頭山にさえぎられ、視界は大山積神社方向のみである。防衛的待避集落としての役割があるのかもしれない。注㉑

13. 積善山遺跡 図-10参照

愛媛県越智郡岩城村大字積善山

I-3-A-a 標高369m、比高320m、傾斜はどの方面も急である。弥生中期に出現した。集落役割としては、祭祀と望楼と通信の役割をもっていると思え、防衛するだけの平坦さと、農耕するだけの平坦さと水がないと思われる。注㉒

又、北方の標高約160mの所に妙見山があり、ドルメンの様な巨石がごろごろとしている。西部にも巨石群が有る。

14. 宝股山遺跡 図-11参照

愛媛県越智郡伯方町有津矢取畑

I-3-A-a 標高304m、比高270mの山頂とその東南の標高190m、比高160mの二ヶ所にある。山頂は東北から山頂が平坦で、山頂から南西は、何ヶ所かのピークがあり、岩がごろごろしており、山頂には石仏があった。弥生中期から後期の集落で通信と望楼と祭祀の役割を持っていると思われる。又、此山の北西270mの山に寺院が有り、古代の山岳寺院の名残りか、ただし、現在の寺は新しいのでそれよりも古いかどうかはわかりません。注㉓

15. 開山遺跡 図-12参照

愛媛県越智郡伯方町伊方開山

I-3-A-a 標高148m、比高140m、標高100m以上はわりとゆるやかであるが、西海岸へは急傾斜である。弥生中期に出現し、通信、望楼、防衛、農耕の役割を持った集落であろう。

又、此からは古代海城と云われる甘崎城をも見る事ができる。注㉔

Ⅳ 総 ま と め

私は古代山城の前身として高地性集落がそれではなかろうかと書いたが、時代的にも奈良時代まで継続する遺跡はまったく無く、古墳時代で完全に消滅していったと共に、高地性集落と古代山城の重積している所は、山口県の石城山、香川県の城山ぐらいしか無い。

いろいろな高地性集落を書いたが、最重要点としては、此らはすべて海上、陸上光通に何等の関わりが強く、うまく行けば古代の航路の解明にもつながる。又、古代山城も古代交通との関係があるから、何等かの解決につなげていきたい。

<参考文献>

- (注) ① 「城」 小野忠熙
② 「吉備考古」36、「八堂山」
③ 「神道考古学講座」2
④ 注③同
⑤ 注③同
⑥ 「神道考古学講座」5
⑦ 注③同
⑧ 広島県埋蔵遺跡地図
⑨ 柳津村誌
⑩ 「ソーシャル・リサーチ」1.3 「愛媛の文化財」
⑪ 「ソーシャル・リサーチ」1.3
⑫ 注⑩同
⑬ 伊予史談 57
⑭ 注⑩同
⑮ 三原市史 国土地院 25万分の1「三原」
⑯ 「陣べら遺跡群」 広島県史(考古編) 本郷町役場発行 54分の1 Ⅸ.6 地形図
⑰ 注⑯同
⑱ 注⑯同
⑲ 「緑ヶ丘遺跡群」 国土地理院 国土基本図 111-PG 48-3
⑳ 「緑ヶ丘遺跡群」 国土地理院 国土基本図 111-PG 48-1
㉑ 「岡山県史」15
㉒ 「吉備考古」75 新市町役場発行 25千分の1 Ⅸ.4 地形図
㉓ 「八堂山」、「ソーシャル・リサーチ」、西条市役所発行 2.5千分の1 Ⅸ.26 地形図
㉔ 注⑩同 国土地理院 5千分の1 国土基本図 111-QG 33
㉕ 「ソーシャル・リサーチ」1 吉海町役場発行 1万分の1 地形図

(注) ㉔ 「ソーシャル・リサーチ」1 国土地理院 2.5万分の1 「木浦」

㉕ 注㉔同

㉖ 「ソーシャル・リサーチ」3 国土地理院 5千分の1 国土基本図 111-QG42

㉗ 「ソシアン・リサーチ」3 伯方町役場発行 1万分の1 地形図

㉘ 伯方町役場発行 1万分の1 地形図 「高地性集落の研究」

※ 2.5万分の1「三原」、「竹原」、「神辺」、「新市」、「西条」、「備後土生」、「幸新田」、「木浦」の地図を図版に使用。